

令和2年度 高等学校OPENプロジェクト実施報告書(3年次)

研究指定校	北海道白老東高等学校	教育局	胆振教育局
-------	------------	-----	-------

1 研究主題															
白老で学ぶ伝統文化～「地域学」等の取組について															
2 研究実践内容															
<table border="1"> <thead> <tr> <th>月</th> <th>実施内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>6月</td> <td>・3学年「地域学」の授業において、北海道及びアイヌ民族の歴史や文化を学ぶ学習を進め、その中で白老アイヌ協会や一般社団法人白老モシリ等と連携し、ムックリ製作やアイヌ文様刺繍等の実習を行った。</td> </tr> <tr> <td>7月</td> <td>・映像によるアイヌ文化の情報発信に向けた練習として、ムックリを紹介する動画を制作した。</td> </tr> <tr> <td>10月</td> <td>・民族共生象徴空間ウポポイでの施設見学や文化体験などを通して、これまで学んだアイヌ民族の歴史や文化への理解を深めるとともに、今後の情報発信に向けた調べ学習を行った。</td> </tr> <tr> <td>11月</td> <td>・白老町教育委員会の協力の下、地域の人材を活用し、映像制作に関する生徒向けの研修会を行った。</td> </tr> <tr> <td>12月</td> <td>・民族共生象徴空間ウポポイ取材し、その魅力発信をテーマに動画制作に取り組んだ。</td> </tr> <tr> <td>1月</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		月	実施内容	6月	・3学年「地域学」の授業において、北海道及びアイヌ民族の歴史や文化を学ぶ学習を進め、その中で白老アイヌ協会や一般社団法人白老モシリ等と連携し、ムックリ製作やアイヌ文様刺繍等の実習を行った。	7月	・映像によるアイヌ文化の情報発信に向けた練習として、ムックリを紹介する動画を制作した。	10月	・民族共生象徴空間ウポポイでの施設見学や文化体験などを通して、これまで学んだアイヌ民族の歴史や文化への理解を深めるとともに、今後の情報発信に向けた調べ学習を行った。	11月	・白老町教育委員会の協力の下、地域の人材を活用し、映像制作に関する生徒向けの研修会を行った。	12月	・民族共生象徴空間ウポポイ取材し、その魅力発信をテーマに動画制作に取り組んだ。	1月	
月	実施内容														
6月	・3学年「地域学」の授業において、北海道及びアイヌ民族の歴史や文化を学ぶ学習を進め、その中で白老アイヌ協会や一般社団法人白老モシリ等と連携し、ムックリ製作やアイヌ文様刺繍等の実習を行った。														
7月	・映像によるアイヌ文化の情報発信に向けた練習として、ムックリを紹介する動画を制作した。														
10月	・民族共生象徴空間ウポポイでの施設見学や文化体験などを通して、これまで学んだアイヌ民族の歴史や文化への理解を深めるとともに、今後の情報発信に向けた調べ学習を行った。														
11月	・白老町教育委員会の協力の下、地域の人材を活用し、映像制作に関する生徒向けの研修会を行った。														
12月	・民族共生象徴空間ウポポイ取材し、その魅力発信をテーマに動画制作に取り組んだ。														
1月															
3 地域みらい連携会議の開催内容															
第1回	令和2年7月21日(火) 15:50～17:00														
出席者	武永真委員、森洋輔委員、池田誠委員、日置典邦委員														
協議内容	・事業の趣旨、実施計画について説明														
指導・助言を受けた内容	・地元の高校としてアイヌ文化や地域のアピールに向けて、どのように貢献できるかという生徒の声を伝え、映像を使った情報発信の可能性について提案したところ、各関係団体から、この取組への協力を得ることができた。														

第 2 回	令和2年8月5日(水) 14:30~15:30
出席者	川崎真也委員、村田賢太郎委員、高橋大樹委員、笹山学委員、日置典邦委員
協議内容	・白老町アイヌ総合政策課及び白老町教育委員会の働きかけにより、アイヌ民族文化財団との協議が実現し、これまでのOPENプロジェクトの取組についての説明をするとともに、今後のウポポイを活用した取組について協議した。
指導・助言を受けた内容	・ウポポイとの連携や連絡窓口についてを確認した。 ・今後、ウポポイをフィールドとした情報発信の可能性についての協議を行った。

第 3 回	令和2年9月2日(水)
出席者	川崎真也委員、村田賢太郎委員、高橋大樹委員
協議内容	・ウポポイをフィールドとした取組について、学校から具体的な企画やプランを提示した。
指導・助言を受けた内容	・アイヌ文化財団が学校が企画した内容を検討し、具体的な企画の提出方法等について協議を行った。

第 4 回	令和3年2月5日(金)
出席者	笹山学委員、日置典邦委員、池田誠委員、武永真委員、川崎真也委員、高橋大樹委員、成田真梨子委員、市川暢子委員、木幡弘文委員、八幡巴絵委員、奥山英登委員
協議内容	・今年度の取組の振り返り ・次年度の「地域学」の実施に向けて
指導・助言を受けた内容	・学校と白老町、白老町教育委員会、アイヌ民族文化財団、国立アイヌ民族博物館が連携し、高校生がウポポイのPR動画を制作したことで一定の成果が得られた。 ・次年度は、高校生と関係機関との交流や打ち合せ等をより密にし、アイヌの歴史や文化、白老町の魅力等について、学んだ成果をまとめて発表する機会の確保が必要であると供試した。

4 研究の成果と課題

(1) 目的の達成状況

- アイヌ文化や白老町の魅力を伝えるための理解を深め、生徒主体で情報発信する取組を通して地域への愛着が深まり、町内の企業に就職して地域に貢献したいと考える生徒が増えた。
- 「地域学」の授業を通して、アイヌ文化への興味を深め、アイヌ文化関連の本やウェブ上での関連記事や動画を見るようになったという生徒が増えた。
- アイヌ文化への理解を通して、文化の神秘性や魅力に気づき、未来に残していきたいと思う生徒が増えた。
- 民族共生について考察する中で、興味を持つことや、理解することの大切さに気づき、自分と異なる考えを持つ人を受け入れられる人間になりたいと考える生徒が増えた。
- アイヌ民族を親族に持つ生徒の中には、「アイヌ文化に誇りを持つようになった」「家族でアイヌ文化について語り合うようになった」という生徒や「アイヌ文化の魅力を情報発信するしかない」と使命感を持った生徒も増えた。

(2) 目標の達成状況

- 白老町アイヌ総合政策課、教育委員会など地域のバックアップ体制により、民族共生象徴空間ウポポイをフィールドとした情報発信に向けた取組をすることができた。
- アイヌ民族や地域に関する学習に関するアンケート調査を4月と11月に実施した。
 - ・「アイヌ民族に関する学習に興味がありますか」
 - 「とてもある」：7%から26%に増加 「ある」：41%から48%に増加
 - ・「アイヌ民族に関する学習は必要だと思いますか」
 - 「とても必要」：30%から33%に増加 「必要」：52%から67%に増加
 - 「必要ない」「全く必要ない」：0%
 - ・「地域に関する学習に興味がありますか」
 - 「とてもある」：7%から30%に増加
 - ・「地域に関する学習は必要だと思いますか」
 - 「とても必要」が15%から33%に増加
- 生徒自身が地域の魅力を発見し、電子メディアを媒介とした情報発信を通して地域に貢献したいと考えるようになった。

(3) 実践研究の規模

- 関係機関との連携を拡大、密接に行い、一層の連携を図ることができた。
- 地域を教材とした取組が、学校の特色とする必要がある。現在、3年生の選択科目で実施している「地域学」の内容を基盤に、「総合的な探究の時間」等を活用して学校全体で教科横断的に取り組みたい。

(4) 研究成果の普及

- ホームページや教科通信を活用して、校内校外への広報と普及に心がけた。

(5) 実践研究内容

- 過去2年間の取組が生徒のインプット中心であったという反省を行った。今年度は「インプットからアウトプットへ」を合い言葉に、「アイヌ文化や地域の魅力をいかに情報発信するか」を大きな実践研究課題として取り組んだ。「高校生の目線で映像を使った情報発信で、若者へのアピールを行いたい」という生徒の発想や、今年度白老町にオープンした「民族共生象徴空間ウポポイを通してアイヌ文化の魅力を発信したい」という生徒の声により、地域の関係機関やアイヌ文化財団など地域みらい連携会議メンバーの協力によって実践研究を始めることができた。
- 情報発信のための動画制作に向け、地域の人材を活用した生徒向けの研修会を2回開催することで、生徒が映像による情報発信の具体的なイメージを持つことができるようになった。
- 今年度は情報発信の第一歩であり、内容については、生徒から様々な案が出されていることから、今後も多くの可能性が考えられる。今後もこの取組を継続させることを地域からも期待されていることから、取組内容をさらに深めていく必要がある。

(6) 地域みらい連携会議

- 各外部機関の方々と目的や目標について共有し、実践を通してこれまでにない協力体制を構築することができた。
- 具体的な取組方法や課題についても共有することで、解決のための方策や可能性に係る助言を得られた。
- 今後も関係機関との協力体制を継続し、学校と地域やアイヌ文化財団など互いのメリットとなるように活動していきたい。

5 プロジェクトの達成状況

(1) [評価の観点] 本道の基幹産業を支える人材や、地域を守り支えていく人材の育成について

(評価)

学校(学科)全体として、本道の基幹産業や地域を支える人材の育成につながる取組となった。

(評価した理由)

取組前後のアンケート結果から、「地域に関する学習に興味がありますか」「地域に関する学習は必要だと思いますか」の項目が大きく上昇した。

また、この学習を通してアイヌ文化や地域について学び、情報発信の方法を考える中で地域の魅力に気付き、地域への愛着が生まれ、地域で就職し活躍したいと考える生徒も増えた。

(2) 【評価の観点】 地域の自治体や企業、産業界等の関係機関との協働について

(評価)

地域の自治体や企業、産業界等の関係機関と協働した取組を実施し、成果や課題を共有している。

(評価した理由)

「アイヌ文化や地域の魅力について映像を使って情報発信したい」「民族共生象徴空間ウポポイを通してアイヌ文化の魅力を伝えたい」という生徒の想いを「地域みらい連携会議」を通して白老町と共有し、連携を深めることができた。年度途中に開館したウポポイとの連携では、町が主体となってアイヌ文化財団に働きかけを行った結果、道筋を開くことができた。その後、アイヌ文化財団に調整をしていただき、ウポポイの閉館日に映像を撮影することができた。制作した動画については、外部発信するには多くの課題があることから、継続した取組が必要であるが、多くの機関との連携体制を構築することができた。今後も継続して実施していきたい。

(3) 【評価の観点】 生徒の主体性について

(評価)

生徒は、地域社会の一員としての主体性を持って取り組むことができた。

(理由)

関係機関の協力によって生徒の想いが実現したこと、また映像という現代の高校生にとって興味関心の高いツールを活用したことから、生徒が主体的に企画し、映像を制作することができた。

(4) 【評価の観点】 地域課題の解決状況について

(評価)

取組により、地域の課題が解決できた。

(理由)

民族共生象徴空間ウポポイの開設により、地域も多くの町外の人たちとの交流や来訪を最大の好機と捉えている。そのような中で地域と一体になって魅力を発信するという課題に、地元の高校生として新規企画を提案することができた。今後は、課題解決に向けて継続した取組が必要である。

6 今後の取組

今年度の取組は、白老町やアイヌ文化財団の協力で実現することができた。

地元の高校として、アイヌ文化や地域の魅力を多くの人々に発信し、知ってもらう取組は、これからも地域やアイヌ文化財団から期待されている。

今後は、必要な予算や教員の配置など課題は多いが、今年度の実践研究を継続し発展させ、映像制作等を通してアイヌ民族の歴史や文化の情報発信をしたいと考える。

7 参考資料

(1) ムックリ製作体験（6月17日（水））



「地域学」の授業において、白老アイヌ協会の方を講師として招き、ムックリ製作と演奏方法について体験を含めた講演会を行った。

この後、生徒はムックリを説明する動画を作成した。

(2) 映像作成についての講演会（11月13日（金）北海道新聞掲載）



白老町出身で、映像制作会社に勤める方を講師として招き、企画や撮影に向けたディレクションについての講演会を行った。

(3) ウポポイでの映像撮影（12月14日（月））



ウポポイの協力を得て、閉館日に動画撮影をさせていただき、アイヌ文化についての映像作成の情報収集を行った。

(4) チェプケリ（鮭の皮の靴）の作成風景（1月25日（月））



生徒が、「地域学」で学んだチェプケリ（鮭の皮の靴）を、当時の作り方に基づいて作成した。

(5) アイヌ文化映像（1月28日（日）北海道新聞掲載）



アイヌ文化やウポポイでの動画撮影を編集した映像について、新聞に掲載された。